

資料2

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

令和6年度 事業計画

社会福祉法人 鶴見乳幼児福祉センター

理事長 小林 政晴

1 現状（令和5年度）状況

昨年度も、感染症、天災、と地球規模で気がかりが多く、日常の生活を保ちながらも、非常時を考えての取り組みは欠かせなくなっています。

1 安全・安心

2 自然との関わり、

3 人（地域）との繋がり

4 ICT（AI）の導入・社会の中で子どもの育ち

保育所では、「不適切な保育」相次いで発覚し、「保育の質」が問われています。

社会の中で、保育士や保育園はどうあるべきなのか。

社会の動向（施策）が変わっても、保育所は子どもの育ちを（保障する）環境には変わりはないが、保育士は、「高度な専門職」であるという社会の認識（保護者・社会・保育士自身）にはなかなかいたらない。

1) 人材育成事業（福祉充実計画 R2～R6の5カ年計画）を勤めてきました。

職員育成計画（総合的な人材育成計画）

① 職員研修プログラムの拡充など、職員に対する育成の充実

② 外部専門家によるコンサルティング

・法人…職員の人事考課研修年2回

・保育…各園の取り組み

③ 「三施設の地域性」を生かした取り組み及び取り組みから要する育成

○「おしゃべりしませんか」等の企画により、子育て支援でも地域の持つ力を

引き出す。保育（保育所）の支援を通して世代を超えた生活の繋がりを
もち地域住民の福祉に繋ぐ。子どもは地域で育つを共有する。

○ 皆の「ルーツは保育園」「未来を繋ぐのも保育園」

様々な環境の地域住民の実家となり、生活の安心を繋いでいく。

高齢者、妊婦、結婚を希望している方、生活の安心の基地となる。

- 外国籍の家庭も多く、また親子で家庭支援をしていく必要の家庭も多い地域に立地し、小学校の中にある保育園として、小学校と連携も取りながら地域（特に外国籍児）支援の役割を担う。

3園の地域性を取り上げた、公益事業計画である。

- 人材確保計画
 - ① 多面的な確保(専門業者の紹介等)ブースの活用。
 - ② 職員の増員や有資格者の採用及び補助職員の資格取得の支援
※資格取得し、保育の仕事をを目指す、資格取得助成する。

令和6年度の取組として

（1）法人事務局の体制の構築

事務職との連携など法人事務局の機能について、本部の事務業務、各拠点の事務業務など洗い出したものを整理し法人機能として構築をしていく。
法人全体を見据えた法人の組織のかたちをつくる。

（2）人材の確保と定着化

- ①人材確保と人材定着を図り、魅力ある職場となるよう職場環境整備・改善を図っていく。
- ②保育士の待遇だけでなく、その他の職種（栄養士、調理師、事務職等）についての待遇も改善し、良い人材を確保できるようにする。
- ③働きやすい職場作り
 - ア. 育児休業。介護休業を職員間でもお互いに認め合い気持ちよく取り合え、職員それぞれが休暇を有効に取得できワークライフバランスをよりよくし、「お互い様」の気持ちが持てる職場づくり。

④人材確保へ有料就職ブースの活用

学校への就職案内や市や県の就職フェア活動など行ってきたが、思うように人材の確保が出来ず。5年度は就活業者がかかわっているフェアに参加手ごたえがあった6年度も継続して取り組む。(6月予定、状況により増やす)

（3）人材育成

外部講師を迎える保育士の保育の質の向上を目的として、こどもの育ちを学ぶ研修として「わらべうたあそび」の保育の講習会を通して学び、発達理論の学びも大きい。保育の振り返りをする。実務を通しての理解と保育の確認ができるため引き続き令和6年度も園内研修と位置付けて取り組む。

リズム運動遊び講習会（わらべ歌遊びと同じスタイルで、リズム保育を通して、子どもの全面発達について学ぶ事が出来、学びを共有できる大事な機械となっている）

- ア. 法人内研修・・・職員の社会人としての姿勢や職員間の人間関係（相手に対する変動）など法人として職員の育成を行う。職員が集まる対面のドリームプロジェクトにおいて講師を招き接遇やアンガーマネジメント研修を行う。予定。
- イ. キャリアアップ研修・・・処遇の改善に繋がる国の制度の研修だが、組織の人材育成にもつながる研修のため、積極的な研修に参加を働きかける。受けてきた研修が保育の中で活かして向上していくような仕組みつくり。
- ウ. 将来の法人運営を担える人材の育成のための外部研修への参加等将来を見据え職員にも法人の方針を周知し育成に繋げる。また人事異動においても計画的に実施し、キャリアパスを整備し効果的に進める。
- エ. 主任会議だけでなく、副主任、その他の各園の担当保育士も会議や意見交換を行い保育の見える化をすることでお互いのスキルアップや組織力の強化へも繋げていく。園長・主任会議も定期的にもち、法人のビジョンを共有し将来を担う人材育成につなげる。

（4）法人内配置の取組

人事異動を行うことで、各拠点の保育に接することで保育の学びも大きく法人組織についても理解を深めることができるため、マイナス思考だけでなく良い点も異動者から発信していかれるようにする。

（5）会議

- ・法人会議（経営会議）・・理事長・園長・労務士等の外部の参加もある。
- ・主任保育士会議・・各園の情報交換等現場運営について・新人研修打合せ等
- ・給食担当者会議・・各園の給食喫食状況や献立についての情報交換
- ・事務職会議・・会計士が会計チェックの際、指導を受け会計についての確認等

（6）評議員会・理事会予定

- ① 定例評議員会 令和6年6月15日（土）
- ② 定例理事会 令和6年5月25日（土）
令和6年11月9日（土）法人の集い午後開催
令和7年3月22日（

令和6年度事業計画（案）

保育園名：鶴見乳幼児福祉センター保育園（定員118名）

令和6年度 研修計画 鶴見乳児福祉センター保育園

*研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

*園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・キャリアアップ研修

*法人研修：①3園全体研修（年1回）②新採用者研修（年3回）
③外部講師による管理職・上級職研修

*園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③保育環境を考える(他園の見学)
⑤わらべうた遊び（外部講師）
⑥リズム遊び（外部講師、保育の中で学ぶ）

*自己研鑽：①横浜のリズム・自然研修
②れてしゅの会（わらべうたあそび）



人材育成

<人材育成のしくみ>

保育の質の向上をめざし、職員一人ひとりが自己のスキルアップの目的を達成できるよう、上級職員は育成に努め
その他の職員は自己研鑽に努めそれが組織の中の役割を理解し業務する。また法人3保育園の共通理解も必要で
あるため、園長・主任・副主任の連携を密にする。昇格についても、組織の中で意識して仕事ができるように周知し
職員が目標を持って業務をし、主任・園長の人材育成に努めて行く。

<わらべうたあそび・リズム・自然研修など>

外部講師を招き、こどもたちと一緒にを行うことを通して、わらべうた、リズム遊びを学ぶ。こどもの育ちや、振りかえりを行なうが、保育の実践の中で生かしていくまた、朝、夕の職員にも

自己研鑽や園内研修のために講師の実践をとったビデオを会議の中で時間を設け、保育を語れる組織としてスキルアップを図る

<新人研修より>

法人で社会人としてのマーや同期の皆でコミュニケーションを取り、KJ法により自分なり
の目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<鶴見乳児福祉センター保育園の人材育成>

コロナから会議の持ち方など感染拡大に配慮した形になっているが、会議を通しての保育への思いや意見を
出し合い連携をとることでめざす保育の方向性を職員間でもち、質の向上へと繋げていく。

組織の中での立場や役割について意識を持ち、仕事をする姿勢を個々に持てるよう育成をする。新人2名異動者
1名配属されることで、新しい雰囲気が生まれお互いに刺激しあえるようにリーダーシップを主任とともにとつて
いく。センター保育園は常設園として地域の親子への支援も担っているが、常設園の運営を中心となって担つて
いくことのできる人材の育成も行う。保育士として社会人としての自覚をもち、不適切な言動や行動は自ら直し
お互いを認め合える関係づくりに務める。

令和6年度事業計画（案）

保育園名：駒岡保育園（定員65名）

1.クラス 体制	クラス（クラス名）	児童数（定員数）	職員数	担当職員
	0歳児 ひよこ組	3名（3名）	1名	錢谷麻理子
	1歳児 すずめ組	8名（8名）	2名	松木亮太・和田朱里
	2歳児 ひばり組	11名（12名）	3名	木下惠理沙・清水彩奈・新人
	3歳児 めじろ組	14名（14名）	2名	於保春香・中田美砂子（加配担当）
	4歳児 かもめ組	14名（14名）	2名	森佐知恵・横溝真由実（加配担当）
	5歳児 つばめ組	13名（14名）	2名	片桐悠夏・今井奈穂（加配担当）

【備考】 フリー：糸賀薫・蓮池由美子・岡田真衣・菊谷祥代 一時保育：西川真砂子

2.職員数	正規職員(15名)								
	園長	主任	主任代行	保育士	栄養士	調理員	事務員	産休育休	
	1	1	/	10	1	1	1	0	
非正規職員(14名)									
保育士	保育補助	栄養士	調理員	看護師	その他	派遣保育補助			
10	3	1	1						

七

【備考】		
3.行事	4月	入園式・各クラス懇談会
	5月	乳児個別面談・幼児お弁当の日
	6月	泥んこ開放（育児支援）・プール開き
	7月8月	七夕・ぼてとまつり・プールじまい・お話会（育児支援）
	9月	3歳児保育参加・つばめスペシャルデー・リズム交流（育児支援）
	10月11月	運動会・リズム交流（育児支援）・幼児遠足・4歳児保育参加・2歳児保育参加・炊き出し訓練
	12月1月	生活発表会・おたのしみデー・3/4/5歳児クラス懇談会・・5歳お別れ遠足・お話会（育児支援）
	2月	豆まき・0/1/2歳児クラス懇談会・5歳児個人面談・鑑賞会（保護者会）
	3月	ひな祭りお茶会・お別れ会・卒園式・進級を祝う会

【毎月実施】誕生会・避難訓練・身体測定・わらべうた遊び年5回・リズムあそび

	*障がい児認定1：1…2名 3：1…2名 保健センターからの申請待ち3名
4.運営 状況	*パパ育休7月取得職員1名。栄養士が6月から産休に入るため単年契約の週2日非正規栄養士雇用、残り3日は派遣を募集中。正規職員1名新規採用 *非正規フルタイム職員4月より雇用
	2歳児1枠、5歳児1枠空き、63名スタート。
	*ＩＣＴ利用のためデバイスの増設。また、ピアノ老朽化のため新調の予定。
	*園庭整備（砂場の砂追加・固定遊具設置）の予定。
	*宿舎借り上げ制度利用職員前年度より2名減り、賃借料減少。

*障がい児認定1：1…2名 3：1…2名 保健センターからの申請待ち3名

*パパ育休7月取得職員1名。栄養士が6月から産休に入るため単年契約の週2日非正規栄養士雇用、残り3日は派遣を募集中。正規職員1名新規採用*非正規フルタイム職員4月より雇用

2歳児1枠、5歳児1枠空き、63名スタート。

* ICT利用のためデバイスの増設。また、ピアノ老朽化のため新調の予定。

*園庭整備（砂場の砂追加・固定遊具設置）の予定。

*宿舎借り上げ制度利用職員前年度より2名減り、賃借料減少。

5.特別保育事業	・一時保育事業・小規模保育園との連携・幼保小交流・地域保育園交流・障害児保育・延長保育
----------	---

地域子育て支援のため地区センターへパパ対象講座へ保育士派遣を行う。

地域のボランティアの方の受け入れ、園児との交流。近隣の公園へ年長児と清掃活動を行う。

7.実習生・ボランティア受け入れ 養成校実習生受け入れ・鶴見中学福祉体験・寺尾中学職業体験の受け入れ。北部県立高校インターフェース受け入れ
区社協ボランティア受け入れ。地域の方のボランティア受け入れ。

養成校実習生受け入れ・鶴見中学福祉体験・寺尾中学職業体験の受け入れ。北部県立高校インターナショナル受け入れ
区社協がうなぎ受け入れ、地域の方のボランティア受け入れ

保育園・保育士の自己評価/各種会議（職員会議・保育会議・クラス会議・各種委員会・係会議）
その他/法人会議・園内外研修各種/キャリアアップ研修

令和6年度 研修計画 駒岡保育園

*研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

*園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・救命救急等・キャリアアップ研修

*法人研修：①3園全体研修（年1回） ②新採用者研修（年3回） ③法人内交換研修

*園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③リズム研修（外部・法人内） ④救急法受講（駒岡消防主張所）
⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる） ⑥鶴見警察署より不審者対応アドバイス

*自己研鑽：①横浜のリズム・自然研修 ②「子どもは描く」研修
③わらべ研修

人材育成

<人材育成のしくみ>

*前年度に引き続き育成シートを利用し、目標設定・育成リーダーによる中間期まとめ期の面談・園長の評価を1年サイクルで行いPDCAサイクルで自己の向上を目指す。また、新人には育成リーダーを付け丁寧に育成を行う
自己のキャリアを構築するため、キャリアアップ研修に参加することで知識を深め、他職員のリーダーとなり発揮していく

<新人研修より>

法人で社会人としての身や同期の皆でコミュニケーションを取り、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<法人研修としてのとりくみ>

職員同士・保護者・子ども・園関係者との気持ちの良い風土づくりのためにR6年度は法人独自の接遇マニュアルを作成し、11月のドリームプロジェクトでは講師を呼んで接遇研修を行う。また、職員の前には園長・主任がさきに「アンガーマネジメント」を学ぶ。

<駒岡保育園の人材育成>

*R5年度は非正規職員に外部講師による「わらべうた遊びを通した子どもの育ち」の学びを行い、朝夕の時間にわらべを通してゆったりと子どもとかかわることができたと好評だったため、希望者には引き続き研修に参加してもらえる環境を作っていく。前年度できなかった他園への見学の機会を取り入れ、環境構成や職員の連携等を学んでいきたい。
さらにはコドモンを利用したドキュメンテーションを利用し、それが明日につながる保育を展開できるよう園内研修を行い互いに保育の質を高めていくようにする。

令和6年度事業計画（案）

保育園名：入船の森保育園（定員40名）

クラス 体制	クラス（クラス名）	児童数（定員数）	職員数	担当職員
	1歳児 ちゅうりっぷ組	5名（8名）	2名	石川・遠藤
	2歳児 さくら組	8名（8名）	2名	植田・伊藤
	3歳児 つくし組	7名（8名）	2名	高橋・若林
	4歳児 たんぽぽ組	8名（8名）	1名	光永
	5歳児 すみれ組	6名（6名）	1名	藤

【備考】フリー：竹元・林・柳下・齊田・勝俣

正規職員（11名）

園長	主任	副主任	保育士	栄養士	調理員	事務員	産休育休
1	1	1	6	1	0	1	0

非正規職員（8名）

保育士	保育補助	栄養士	調理員	看護師	その他	派遣保育補助
3	1	0	3	0	0	1

【備考】

4月	各クラス懇談会・リズム遊び（小学校交流）・津波訓練（入船小合同）
5月	園児検診・5歳児園外保育
6月	運動会・歯科検診・リズム交流（育児支援）・幼児保育参加
7月	七夕（育児支援も含む）・わくドキ会（年長児20:00まで保育）
9月	3歳児保育参加・わくドキ保育・リズム交流（育児支援）
10/11月	リズム交流（育児支援）・2, 3, 4歳児園外保育・乳児保育参加・炊き出し訓練
12/1月	生活発表会
2月	豆まき・各クラス懇談会
3月	入園説明会・お別れ会・卒園式

【毎月実施】誕生会・避難訓練・身体測定・わらべうた遊び年4回・リズムあそび・英語で遊ぼう

*新人職員1名増で正規保育士8名となる
*保育補助（竹元）が有資格になったら、派遣から非正規保育士として雇用する予定
*小学校内に在籍している事で小学校との交流をし、幅広い異年齢との交流を深める。また、近隣に広報していく
*男性保育士受け入れの環境整備 *全職員の健康増進のための環境整備 *絵本コーナーの設立
*校庭砂除け・日よけネットの購入 *施設設備の使用期限を確認し、故障前に手立てをする

*幼保小交流 *地域保育園交流 *障がい児保育 *延長保育 *子育て支援 *外国人支援
*入船小学校1年生向けに保育士が本読み等の出張をおこなう

*能登半島地震の被災者の方への募金を園児と届ける
*地域のボランティアの受け入れ *各家庭の被服の不用品のリサイクル

養成校実習生受け入れ・鶴見総合高校保育士体験・寛政中学職業体験の受け入れ。
区社協ボランティア受け入れ。地域の方のボランティア受け入れ。

保育園・保育士の自己評価/第三者評価受診/各種会議（職員会議・カリキュラム会議・クラス会議・各種委員会・係会議）/法人会議・園内外研修各種/キャリアアップ研修 処遇改善についての対応
--

令和6年度 研修計画 入船の森保育園

- *研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。
- *園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・救命救急等・横浜市保育士会
- *法人研修：①接遇研修研修（全体で年1回） ②新採用者研修（年3回）
③コサルティング 主催の管理職向け組織づくり研修④管理職向け接遇・アンガーマネジメント（5月）
- *園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③リズム研修（外部・法人内）④研修報告（会議にて受講した研修報告をする）
⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる）⑥第三者評価への取組
- *自己研鑽：①よこはまリズム研修会・自然研修 ②「こどもは描く」学習会

人材育成

<人材育成のしくみ>

保育者として以前に、人としての基本であるモラル・接遇などを見直す。11月のドリームで全職員が接遇研修（アンガーマネジメントを含む）を受講する。事前に5月に園長・主任で管理職用の研修を受講する。

・法人として取り組んでいるトレーナー制度を活用し、5等級・4等級が1～3等級のトレーナーとして日常の保育のアドバイスや相談にのる。（年2回面接）園長はトレーナーからの相談やアドバイスをおこなう。

<わらべうた遊び・リズム・自然研修>

外部講師によるわらべうた遊びを通した子どもの育ちの学びなおしを行い、質の向上を職員全体で目指す。

<新人研修より>

法人で社会人としてのマーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う。（年3回）

<入船の森保育園の人材育成>

・第三者評価を受けることをきっかけに、職員全体でマニュアルの確認・整理を行い職員一同が同じ方向を向いて園運営ができるよう図っていく。
・外部研修にも自発的に参加することでスキルが伸びる楽しさを職員が感じられる環境づくりをする。また、法人園、他園の訪問だけでなく、児童相談所等、子どもに関わる福祉施設に訪問する機会を設けることで、より幅広く福祉職・対人援助職のスキルを高めていく